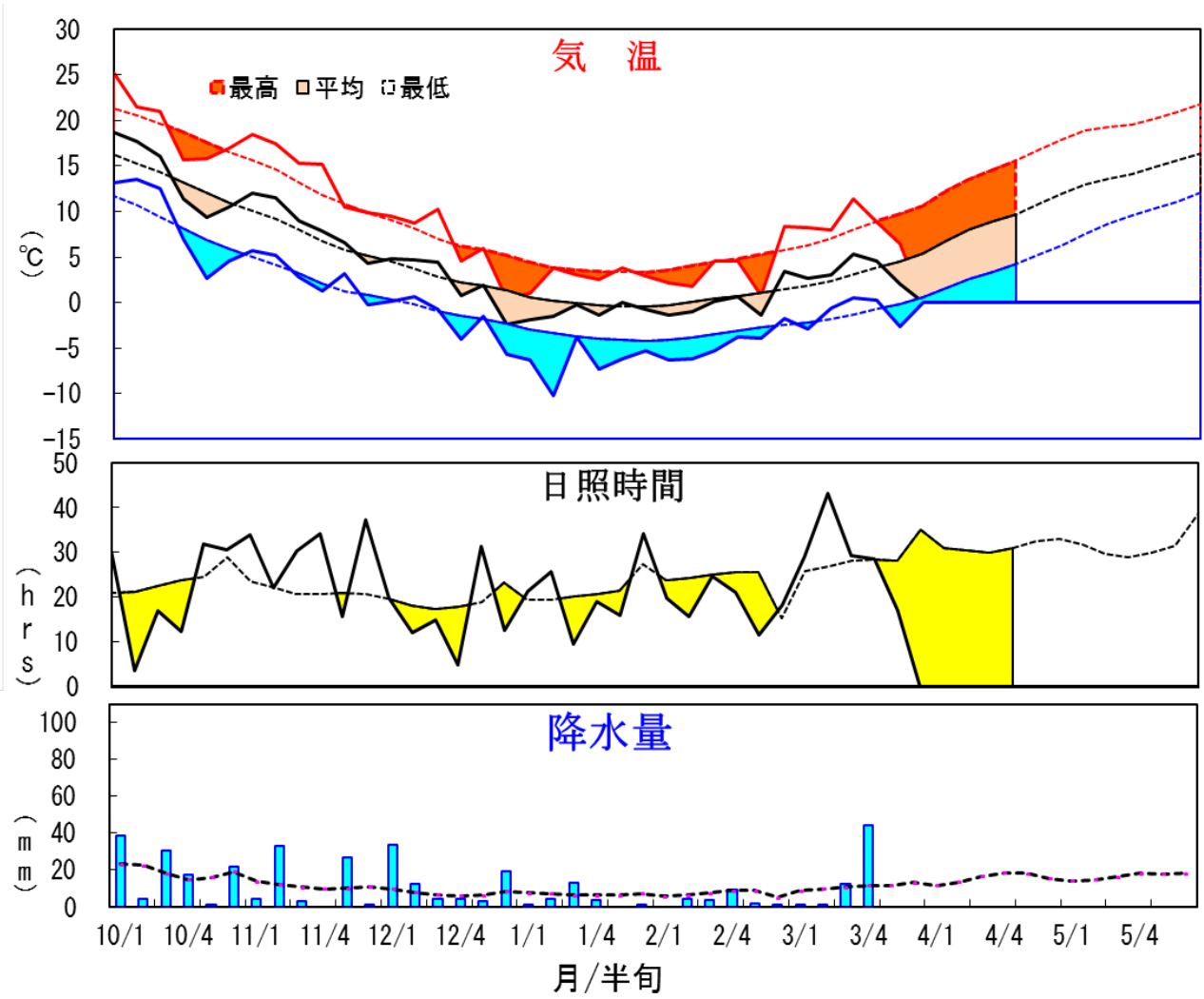


# 麦作情報第3号

令和4年3月25日：JA全農みやぎ

～大麦は幼穂形成期に入った模様、追肥の準備を！！～

## 1 気象経過



### ◆東北地方の1か月予報【3月26日～4月25日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・気温は、高い確率 60%、平年並みの確率 30%、低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 30%、少ない確率 40%。
- ・日照時間は、多い確率 40%、平年並み若しくは少ない確率 30%。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉

【気温】東北地方	10	30	60
【降水量】東北地方	40	30	30
【日照時間】東北地方	30	30	40

## 2 生育状況

### (1) 古川農業試験場内作況試験ほ場 (3月2日現在)

- ・3月2日現在の10月中旬播種区の葉数は、大麦・小麦ともに6葉前後で、2月10日の平年値と概ね同程度であった。気象条件と測定時期を考慮すると、葉数は平年と同等～少なく推移しているとみられる。
- ・10月下旬播種区の葉数は、中旬播種区の70%程度であった。

	品種・区分	草丈			茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年値 (cm)	平年値 (cm)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年値 (本/m <sup>2</sup> )	平年値 (本/m <sup>2</sup> )	本年 (枚)	前年値 (枚)	平年値 (枚)
大麦	シュンライ 中旬	-	12.1	10.5	-	682	769	5.8	5.1	5.5
	同 下旬	-	7.8	-	-	264	-	4.5	3.5	-
	ミノリムギ中旬	-	11.4	10.9	-	689	848	5.9	5.2	5.7
	同 下旬	-	7.5	-	-	229	-	4.3	3.8	-
小麦	シラネコムギ中旬	-	10.8	12.0	-	474	762	6.3	5.5	5.9
	同 下旬	-	9.4	-	-	147	-	4.1	4.1	-
	夏黄金 中旬	-	10.9	-	-	699	-	6.0	5.6	-
	同 下旬	-	8.7	-	-	195	-	4.3	3.8	-

※積雪のため、本年の草丈及び茎数は欠測。

- ・3月2日現在の中旬播種区の大麦の幼穂長は1.0～1.2mmで、2月末～3月初頭に幼穂形成期に達したと推定される。小麦の幼穂長は0.3mmで、幼穂形成期には達していない。大麦・小麦ともに幼穂は2月10日の平年値より小さく、生育ステージは平年より遅めである。
- ・下旬播種区の幼穂長は大麦が0.6～0.7mm、小麦は0.2mmで、いずれも幼穂形成期には達していない。

	品種・区分	幼穂長			幼穂形成期		
		本年 (mm)	前年 (mm)	平年 (mm)	本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)
大麦	シュンライ 中旬	1.2	1.0	1.3	2/26	2/20	1/30
	同 下旬	0.7	0.4	-	-	3/13	-
	ミノリムギ中旬	1.0	0.8	1.1	3/2	2/21	2/11
	同 下旬	0.6	0.4	-	-	3/10	-
小麦	シラネコムギ中旬	0.3	0.2	0.4	-	2/17	3/4
	同 下旬	0.2	0.1	-	-	3/25	-
	夏黄金 中旬	0.3	0.2	-	-	2/15	-
	同 下旬	0.2	0.1	-	-	3/26	-

### (2) 麦類生育調査ほ (2月10日現在)

- ・播種が遅かったほ場や、ほ場内に停滞水が発生した所では、茎数をはじめ生育量が不足気味である。
- ・播種が遅かったほ場では、まだ幼穂形成期には達していない。
- ・積雪や降雨の影響で、鎮圧作業に入れないほ場が多い。

	品種・区分	地域	播種期	草丈				茎数			幼穂長		
			本年 (月/日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	平年差 (mm)	平年差 (mm)	
大麦	シュンライ	大河原	11/15	7.8	109	98	180	58	50	0.0	0.0	-0.9	
		桃生	10/10	18.0	156	178	1,030	167	299	2.5	1.5	1.7	
	ミノリムギ	桃生	10/22	11.6	110	105	561	163	141	1.0	0.2	0.2	
	ホワイトファイバー	大河原	10/25	8.2	93	-	337	74	-	0.0	0.0	-	
		大和	11/1	6.7	66	-	176	19	-	0.3	-0.8	-	
小麦	シラネコムギ	古川	10/30	9.9	104	100	468	103	87	0.2	0.0	0.0	
		鹿島台	11/3	8.8	62	105	174	8	33	-	-	-	
	桃生	10/10	22.3	890	197	1,297	1,979	245	0.5	-	0.3		
	あおばの恋	豊里	11/1	11.7	177	-	136	142	-	0.5	0.5	-	
	夏黄金	涌谷	11/4	9.0	127	115	388	85	88	-	-	-	

### 3 今後の技術対策

#### (1) 排水対策

- ・分げつ期の湿害は、生育抑制や分げつの減少につながる。
- ・今年は積雪が多く、積雪の期間が長かったほ場も見られる。融雪とともに明渠が崩れる恐れがあるので、ほ場をよく見回り、停滞水が発生している場合は早急に改善する。

#### (2) 麦踏（鎮圧）

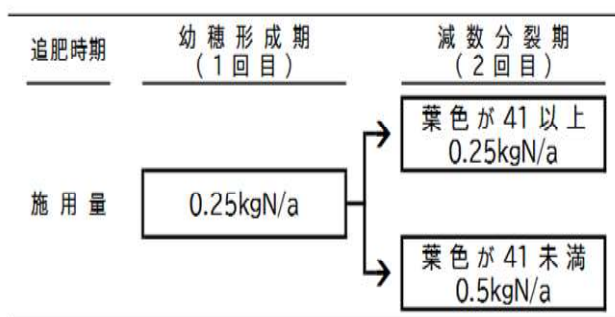
- ・麦踏は、茎数の増加、倒伏・凍上害の防止、耐寒性等の強化、生育の均一化に有効である。
- ・今年は積雪が多く、計画どおりの鎮圧作業ができなかったほ場が多いと思われる。
- ・麦踏が可能なほ場は、土壌状態（乾き具合）をよく確認して、早め実施する。
- ・ただし、幼穂長が3mmを超えると麦の生育に有害になるので、注意が必要である。

#### (3) 追肥

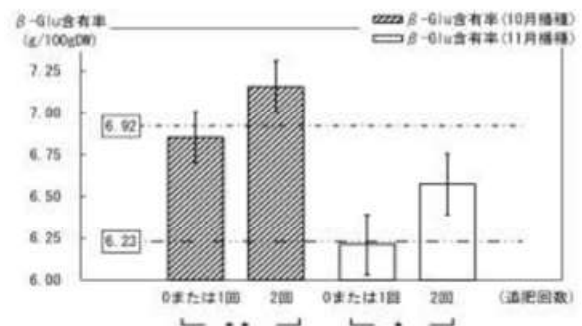
- ・融雪後は、越冬後の生育量を確保する追肥が重要になる。
- ・幼穂形成期の追肥は、有効茎歩合を向上させ、穂数の確保を目的とする。
- ・追肥の目安については、前号（麦作情報2号）を参照のこと。

#### 【新技术:大麦「ホワイトファイバー」のβ-グルカン含有率を維持するための追肥管理】

- ・「β-グルカン」とは、ホワイトファイバーなどの糯性大麦に含まれる水溶性食物繊維のことで、血中コレステロール値の正常化や食後血糖値の上昇抑制等に効果があると言われている。
- ・実需者からは、β-グルカン含有率を低下させない栽培が求められている。
- ・大麦の収量・品質を安定させるためには、幼穂形成期及び減数分裂期の追肥が必要であるが、ホワイトファイバーの追肥の目安は、図1のとおりである。



【図1 ホワイトファイバーの追肥時期と施用量】



【図2 追肥回数別のβ-グルカン含有率】

- ・幼穂形成期と減数分裂期の両時期に追肥しないと、β-グルカン含有率は優位に低下する（図2）。
- ・「葉色」の測定は、水稻の生育調査で使用する「葉緑素計」のSPAD値を用いた。ほ場での測定方法は、生育が平均的な麦株の主茎または主茎と同等に生育が進んだ茎の展開第2葉で、20株以上の平均値とした。

【宮城県「普及に移す技術第96号」（宮城県農業・園芸総合研究所HPより）】